

ただいま開催中!

きらきらひかる展

2018 9.14金▶10.28日

観覧：一般800円(600円)／大学生600円(400円)
高校生以下は無料です。65歳以上・モノレール1日乗車券利用者
は団体料金 ※()の料金は20人以上の団体料金です。
※「きらきらひかる展」観覧料で常設展もご覧いただけます。



重要文化財

せーふあうたき えんしやうせん
《斎場御嶽出土の厭勝銭、
勾玉、青磁》斎場御嶽は琉球
開闢の神アマミキヨが創った
御嶽の一つとされ、琉球王
国時代は最高の聖域でした。
復元整備に伴う発掘調査時
に出土したもの。必見です!
／南城市教育委員会所蔵



たまのおかんむり
《玉冠(複製品)》琉球
国王が即位する際に中国
皇帝から贈られ、国の重
要な儀式に用いられた。金
や銀、珊瑚や水晶など7
種類の玉が合計288個、
鉾で留められています。
／那覇市歴史博物館所蔵



ときめく展覧会がたくさん。

世界的美が浦添に。企画展を楽しむ。

国内はもちろん世界の優れた美術作品について、
ユニークで質の高い展示会を開催。



《きらびやかな花嫁衣装》中
央アジアの19世紀頃の花
嫁衣装を再現。全身を飾る
装身具の総重量は16kgだ
そうぞうす!／ポーラ文化
研究所所蔵

美術館の企画展では、9
月から10月までの間、きら
きらひかる展―世界の輝く
宝もの―を開催しています。
この展覧会は「輝くもの」
「光るもの」をテーマに、きら
めく素材や装身具、身の回り
を飾るきらびやかな調度品
を展示し、様々な地域の文化
や美術工芸の魅力を紹介す
る展覧会です。
人々はどうして光り輝く
ものに心を奪われ、求めたの
でしょうか。その欲求は美術
や工芸の技術・表現などを高
度に発展させる力となりまし
た。豪華絢爛、美しく光輝
くものの魅力的な世界をご
覧ください。

国宝 《千代金丸》琉球国王家の尚家に伝来した刀剣。
／那覇市歴史博物館所蔵



りゅうずかんのんぞう
《電頭観音像》19世紀に
活躍した彫刻家田名宗経
の作品。／沖縄県立博物
館・美術館所蔵

ちよがねまる
名刀「千代金丸」が
浦添市美術館に!

日本の名刀を擬人化したゲーム
「刀剣乱舞」に登場する千代金
丸。ゲーム内に登場する刀剣を
展示した全国各地の美術
館に若い女性が殺到する
異例のブームに!

きらきらひかる展
ワークショップ
申し込み ☎ (879) 3219

要予約

「キラキラ★大人の真鍮アクセサリー作り」
●日時／10月13日(土) 14:00～16:00
●場所／美術館実習教室 ●参加費／2,500円
※参加には「きらきらひかる展」の観覧券が必要です。

「キラキラ★ワイヤーアクセサリー作り」
●日時／10月20日(土) ①14:00～15:00 ②15:00～16:00
●場所／美術館実習教室 ●定員／各回6人 ●参加費／600円
●対象／小学3年～中学生 ※小学生は保護者の同伴をお願いします。

美術館の楽しみ方は
人それぞれでいい
開館から約30年、浦添市美術館はさ
まざまな企画展や常設展を開催し、訪
れる人たちの目を楽しませてきまし
た。一つの企画を実施するためには、構
想から展示物の確保までおよそ2年を
要し、作品を来館者に心地良く見せる
ための配置やライティングなど、その一
つ一つの過程に、学芸員のこだわりや思
いが込められています。
学芸員に美術作品の見方や楽しみ方
を尋ねたところ、作品を見つめてこう言
います。「どう楽しむかは人それぞれで
正解はありません。見て触れて感じて、
新しい発見や感激、感動があれば心のビ
タミン剤になるのかもしれない」。
芸術品や美術品には、生まれた背景
があります。作者の思いや時代背景に
思いを馳せるも良し、あるいは写真を
撮ってSNSでシェアするのも今どき
な楽しみ方かもしれません。また、美術
館の楽しみ方は館内だけではなく、花や
緑が溢れ、意外と知られていない展望
塔もあります。そこにはインスタ映えす
るような「浦添にしかない景色」が広
がっています。
今度の休日あなたなりの楽しみ方を見
つけるために美術館に出かけてみま
せんか。



①琉球漆器の加飾技法を
テーマに作品を紹介 ②記念
に顔出しパネルでパチリ! ③
アジアの漆文化の世界漆器
も展示。(～10/8まで)

浦添にしかないお宝がいっぱい。

漆の美を堪能。常設展を楽しむ。

琉球王国時代から現代までの漆器をコレクション。
年に3回テーマを変えて紹介。

美術館では、琉球王国時代から
現代までの漆器をコレクションし、
中国や日本、朝鮮などさまざまな
国の漆器や絵画、焼物なども所
蔵しています。
かつて琉球は、13～14世紀頃に
諸外国との交易によって経済的
繁栄と豊かな文化を作り上げて
いました。漆芸もその一つで日本
や中国からの影響を受けながら
発展してきました。
中国との交流を始めた中山・浦
添でこの歴史的背景のある琉球
漆器を紹介するため、常設展で
は、毎年3期に分けてさまざまな
テーマに沿った約80点の作品を5
つの部屋で展示・紹介しています。
世界的にも高い評価を受けた
琉球漆器の美を是非ここで堪能
してください。

10月13日(土)から新しく常設展のテーマが変わります /

琉球漆芸とJAPAN暮らしの漆器展

NEW!
1

漆器から
沖縄の歴史を見る

第1室と第2室で琉球漆器の歴史
を追って紹介します。琉球王国時代、
漆器は王府が製作し、中国皇帝や徳
川将軍へ贈った美術品でした。王国
がなくなると民間へと生産が移り、沖
縄戦後は米軍向けの漆器が誕生しま
す。このように、漆器を通して沖縄の
歴史と文化に触れることができます。



くろうるししはいんとう
《黒漆琴高仙人宝尽螺鈿箱》
17～18世紀の作品。蓋に描
かれた琴高仙人は鯉を自由に
のりこなす伝説の仙人です。

NEW!
2

世界に誇る
「JAPAN」の漆

第3室と第4室では日本の漆器を紹
介します。16世紀頃のヨーロッパで
は、漆器の光沢や滑らかさ、美しい装
飾が人気となり漆器を「JAPAN」と
呼びました。注文により、洋風な漆器
も作られ輸出されました。また、日本
各地にはそれぞれ特徴のある漆器が
あります。桃山時代から江戸時代の日
本を旅するような感覚でご覧ください。

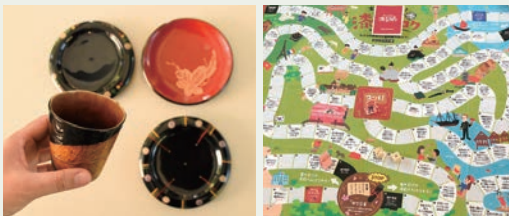


きんしゅうおか のぶたか
《錦秋》岡 信孝氏 作／紅葉が
美しい秋の京都の景色です。
(12/22～'31年2/3特別展示)

NEW!
3

漆に触れる。資料展示室

第5室では漆と漆器の資料展示です。触
れる漆器やスコロクもあります!漆の樹から液を採
る様子の映像や製作工程などをご覧ください。



常設展イベント情報
常設展か企画展の当日観覧
チケットの提示が必要です。

予約不要

「美術館でほっこり♡呈茶とギャラリートーク」
●日時／10月21日(日) 11:00～14:00 ●料金／呈茶のみ(200円)
【ギャラリートーク(全4回)】※ギャラリートークとのセット企画です。
時間／①11:30～12:00 ②12:30～13:00 ③13:30～14:00 ④14:00～15:00

「茶席の漆器と懐石料理のはなし」
●日時／10月27日(土) 14:00～16:00
●定員／40人 ●申し込み／不要
室町時代から江戸時代の日本の漆器を展示します。

※常設展観覧料は「ちむどんどん施設情報(P10・P11)」をご覧ください。